

土着天敵と天敵温存植物を利用した 露地ナスの減農薬栽培技術

奈良県農業研究開発センター
(近畿ブロック)

技術概要： 露地ナスでは、殺虫剤に対して複合抵抗性を発達させたミナミキイロアザミウマが発生し、化学的防除体系では被害を抑制するのが困難である。そこで、土着天敵ヒメハナカメムシ類に対する影響の小さい選択性殺虫剤の導入による天敵保護と併せて、フレンチマリーゴールドをほ場の側面に植栽して温存場所とすることで、ミナミキイロアザミウマに対する薬剤防除を大幅に削減し、栽培期間を通した殺虫剤使用回数をほぼ半減することができる。

品目： ナス
技術分類： 防除
導入効果： 殺虫剤使用回数をほぼ半減



ミナミキイロアザミウマを捕食するヒメハナカメムシ類



圃場側面に植栽したフレンチマリーゴールド

技術導入・普及時の問題点

- 選択性殺虫剤で防除できないカメムシ目害虫が発生した場合は、ヒメハナカメムシ類への影響期間を考慮した防除判断が必要となる。
- 病害虫の発生状況に応じた農薬の選択が最も難しいので、的確な指導を行える指導者の育成が必要である。
- 現地実証による地域に応じた防除体系の最適化が必要である。



カメムシ目害虫（カスミカメ類）による新芽被害

解決に向けた取組

- 普及と研究の連携による農家圃場での実証を行い、普及・研究・農家で成功体験を共にすることで、指導者育成と農家への動機付けを行う。
- 地域に応じた防除暦を作成することで、防除要否と薬剤選択の判断をサポートする。

